

CQ28 妊娠中の性器クラミジア感染の診断, 治療は?*Answer*

1. 母子感染を予防するために妊娠中のクラミジア検査を行う. (B)
2. 子宮頸管のクラミジア検査法は, 同部位の分泌物や擦過検体を用い, 核酸増幅法, 核酸検出法, EIA 法, 分離同定法などを行う. (B)
3. 治療には, クラリスロマイシン (200mg×2/日, 7日間), もしくはアジスロマイシン (1,000mg×1/日, 1日間) を用いる. (B)

▷ 解 説

1. 診断の実際と留意点

クラミジア・トラコマティスによる性器クラミジア感染症は, 本邦の性行為感染症の中で最も患者数が多い. 本邦同様クラミジアが若者の間で蔓延している米国では, 25歳以下の性生活を営む女性, 25歳以上でもパートナーを変えた女性, 複数のパートナーと性交渉がある女性などは年1回のクラミジアスクリーニングが勧められている¹⁾²⁾.

母子感染予防を目的とした性器クラミジア感染妊婦に対する治療は, 新生児クラミジア感染症を減少させ³⁾, 妊婦に対する性器クラミジア感染スクリーニング検査も新生児クラミジア感染症を減少させる⁴⁾と報告されている. 産道感染による新生児クラミジア結膜炎, 咽頭炎などの新生児クラミジア感染症発症を未然に防ぐためには, 妊娠中に臨床症状が乏しいクラミジア子宮頸管炎のスクリーニング検査を行い, 陽性者は分娩前にこれを治療しておくことが肝要である. 子宮頸管へのクラミジア感染の診断は血清抗体検査のみでは困難であり, 検査に際しては子宮頸管の分泌物や擦過検体からクラミジア・トラコマティスの検出を行うことが望ましい. 分離同定法, 核酸増幅法, 核酸検出法, EIA法があるが, なかでも核酸増幅法 (TMA法, PCR法, SDA法など) が高感度である. 感度は劣るが, EIA法や核酸検出法も用いられている⁵⁾⁶⁾.

妊娠中の性器クラミジア感染は, 絨毛膜羊膜炎を惹起し, 流産の原因となることもある⁵⁾. しかし, 流産防止を目的とした妊娠初期クラミジアスクリーニングの有用性については, 否定的な研究結果が報告されている⁷⁾⁸⁾.

2. 感染妊婦取り扱いの実際と留意点

妊婦に対する性器クラミジア感染症治療薬として, 日本性感染症学会は現在本邦で用いられているクラリスロマイシン, アジスロマイシン, ミノサイクリン, ドキシサイクリン, レボフロキサシン, トスフロキサシンの中から, 胎児に対する安全性を考慮しクラリスロマイシン, アジスロマイシン (いずれも添付文書では有益性投与) が投与可能としている⁹⁾. 一方, 米国CDCはニューキノロン系, テトラサイクリン系を禁忌とし, 妊婦に対する選択薬としてエリスロマイシン (FDA Pregnancy Category B), アモキシシリン (同B, 本邦ではクラミジアに保険適用なし), アジスロマイシン (同B) を推奨している²⁾.

治療の判定には, 治療3~4週間後に核酸増幅法, EIA法などを用い病原体の陰転化を確認する⁵⁾. 血清抗体検査だけの治療判定は困難である. また合わせて, クラミジア陽性妊婦のパートナーにも検査・治療を受けることを勧めることが望ましい⁵⁾.

文 献

- 1) ACOG committee opinion: number 301, Sexually transmitted diseases in adolescents. *Obstet Gynecol* 2004; 104: 891—898 (Committee opinion)
 - 2) CDC: Sexually transmitted diseases treatment guidelines 2002. 2002; *MMWR* 51: RR-6 (Guideline)
 - 3) Alary M, Joly JR, Moutquin JM, et al.: Randomised comparison of amoxicillin and erythromycin in treatment of genital chlamydial infection in pregnancy. *Lancet* 1994; 344: 1461—1465 (I)
 - 4) Hammerschlag MR, Cummings C, Roblin PM, et al.: Efficacy of neonatal ocular prophylaxis for the prevention of chlamydial and gonococcal conjunctivitis. *N Engl J Med* 1989; 320: 769—772 (II)
 - 5) 日本性感染症学会：性感染症 診断・治療ガイドライン 2006. *日性感染症会誌* 2006；17：40—43 (Guideline)
 - 6) Watson EJ, Templeton A, Russell I, et al.: The accuracy and efficacy of screening tests for *Chlamydia trachomatis*: a systematic review. *J Med Microbiol* 2002; 51: 1021—1031 (Meta-analysis)
 - 7) Oakeshott P, Hay P, Hay S, et al.: Association between bacterial vaginosis or chlamydial infection and miscarriage before 16 weeks' gestation: prospective community based cohort study. *BMJ* 2002; 325: 1334 (II)
 - 8) Osler S, Persson K: Chlamydial antibodies in women who suffer miscarriage. *Br J Obstet Gynaecol* 1996; 103: 137—141 (II)
-